

街路樹

道徳科の授業改善の視点と実践例紹介

スクールカウンセラー活用にあたって

7月1日に開催した「道徳教育研修」では、小学校4年生の教科書にある「大きな絵はがき」の指導案を検討する演習を行いました。参加した先生方は授業改善に向けて、例示した指導案をどのような視点で検討したのでしょうか。

【発問について】

- ・「正子は、広子から間違いを伝えられて、嫌な気持ちになるかな」を「なぜ間違いを正そうと決心することができたのだろう？」と考えると、書く活動につながるのではないかな。
- ・自分の行動・心情を深く考えさせたいのに正子のことを考えさせていることが課題である。

【授業の展開について】

- ・葛藤場面では盛り込みすぎず、主発問に絞る方がよい。
- ・友情を深めるためにどう伝えるか、何と書くかを考えさせる必要がある。
- ・心情円盤はこの場面では必要ないのではないかな。

【評価「助言することがよい友達関係につながっていくことに気づくことができたか」について】

- ・教師の思いが強く出ているが、助言することだけがよいわけではなく、助言しない方がよいこともあるので、この評価の観点でよいかな。
- ・よい友達関係とは、友達のことをよく理解しようとしたり、友達とのよりよい関係を築こうと心がけていったりすることそのものではないかな。

子どもたちが多面的・多角的に諸価値について考え、主体的に判断し、よりよく生きていくために道徳の時間があるということを改めて確認する話し合いとなりました。

指導案については、7月13日に【事務連絡】道徳教育研修(7月1日)の資料等についてとして各校に送付しております。校内研修等でぜひご活用ください。

【各校配置のスクールカウンセラーについて】

スクールカウンセラー(以下「SC」)等派遣事業は、不登校を始めとする児童生徒の様々な問題の未然防止や早期解決を図るため、また、東日本大震災後の心のケアを図るために心の専門家であるSCを配置する事業です。市内全ての中学校と一部の小学校には、県よりSCが配置されています。SC活用にあたっては、教育相談体制を充実させる観点から、SCをチーム学校の一員として位置付け、SCの役割や業務等を明確にし、全職員が共通認識をもつことが必要です。また「守秘義務」について十分留意し、SC本人と必ず確認をしながら「チーム内守秘義務」として適切な情報共有を図っていただきたいと思います。SC未配置の小学校については、お手数をおかけいたしますが、近隣中学校との連携を図り、SCを活用いただくようお願いいたします。

【総合教育センター配置のSCについて】

総合教育センターには、市よりSCが配置されております。主に、「子ども健康教育相談」に来所された方の中で、SC対応が必要だと判断されたケースについて対応しております。下の表に示したとおり、昨年度の相談件数については、のべ700件を超えました。

総合教育センター SC対応相談件数	年度	H29	H30	R元	R2
	件数	582	791	618	733

早期発見・早期対応のためには、先生方による日頃からのきめ細やかな観察や教育相談、児童生徒の実態把握が大切となります。ケアが必要な児童生徒については、各校配置のSCを活用いただくとともに、ケースによっては総合教育センター配置のSCの対応も可能ですので、事前に教育支援室に相談いただくようお願いいたします。なお、医療につながっているケースについては、主治医の承諾が必要ですのでご注意ください。

コロナ禍の研修について

例年この時期には、夏季休業中に実施する教頭実務研修②についての内容をご紹介していました。今年度は、「教師を支える会」の代表として、長年にわたり教職員のメンタルヘルス等に取り組んでこられた、明治大学教授の諸富祥彦先生にご講義をいただく予定でしたが、残念ながらコロナ禍の影響で中止となりました。

今年度は前年度にも増して、コロナ禍の影響による研修の変更がありました。当初は紙上研修としたり、基本研修や教員免許状更新講習の該当者に参加者を限定して対応していましたが、研修を希望される先生方にも参加していただくために、オンライン研修も実施することとしました。オンライン研修を実施するにあたっては、どのような方法が適切であるか、先進的に進めている他市や大学等への視察等を行ったり、実証実験を行ったりすることを通して、準備を進めてきました。その結果、Zoomを活用した同期型のオンライン研修が効果的であると判断し、それを中心にオンライン研修を行ってまいりました。また、Googleの機能の1つであるClassroomを活用し、昨年度から調査研究委員会実践された授業動画を共有ドライブにアップし、校内研修等で活用できるようになりました。

先生方の研修後の感想には、オンライン研修の有効性の他、研修ができることへの感謝の声もありました。反対に、ブレイクアウト機能はあるものの意見交流が十分に行えないとの声もありました。10月からは集合研修を再開し、臨場感や他者との交流などの集合研修のよさについて、研修を実施する側及び参加される先生方の双方で再認識することができました。このように、コロナ禍により、研修の必要性をはじめ、その内容や方法などを見つめ直すきっかけとなりました。今後も先生方にとって有意義な研修となるよう、PDCAをしっかりと行っていきたいと思います。